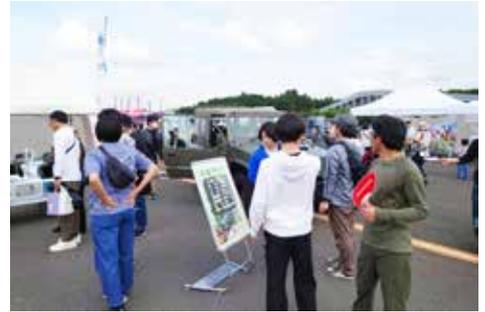




自衛隊栃木地方協力本部

『24超Honda祭』に自衛隊広報ブース初出展！

～3つのポイントを押さえ、イベント相乗効果を活かし自衛隊の魅力を発信～



催事の相乗効果で賑わう会場の様子

真岡募集案内所は「大手民間企業の集客力をお借りし、イベントコンテンツのシャワー効果を利用したことで、普段の広報展よりも男女を問わず若い世代の方のブース来場者が多かった。今後、若者の興味や関心を引き出せるよう展示車両を増やし、民間企業のブランド力と自衛隊の装備品展示の相乗効果が発揮できるような広報展の実施に取り組んでいく」としている。

当日はライブFES、モビリティイベント、車両展示など多くのコンテンツが用意され、大勢の来場者で会場は大変賑わった。自衛隊ブースでは1/2トラック展示、F-4戦闘機部品展示、制服試着体験、射的コーナー等を実施した。特に車両展示は、車好きの若い世代の来場者で大変賑わった。来場者からは、「車両がただの移動手段ではなく、戦術や機能が考えられた設計が施されていることに興味を持ちました！」「車両を維持するための自衛隊の技術力や管理方法にも興味を沸かしました」等の感想をもらい、好評を得ていた。また、会場には子供連れの地域の家族が多かった。親子で楽しめる制服試着や射的などの体験が人気で順番を待つ長い列を成していた。中でも、実物のF-4戦闘機の操縦桿やヘルメット展示は大きな注目を集め、来場者は操縦桿を握りしめ模擬操作を体験しながら自衛官に様々な質問をされていた。操縦桿操作を体験された男性は「リアルな戦闘機を感じる事ができました！」「戦闘機の操縦桿を実際に触れる機会はなかなかないので、貴重な体験になりました」などの声があった。

自衛隊栃木地方協力本部真岡募集案内所（所長 古川 3 陸佐）は、10月27日（日）、栃木県芳賀町の本田技研工業（株）が主催する「24超Honda祭」に自衛隊広報ブースを初めて出展した。今回の出展は
① HONDAのバイクや車に興味を持つ熱心なファンが集まる。
② 新技術やトレンドに敏感な若者たちの来場が期待できる。
③ 本田技研工業の従業員をはじめとする地域住民の来場も多く、総じて地域のコミュニティイベントとしての側面がある。
以上の3つのポイントを押さえ、自衛隊の魅力を特に若者たちに発信できる絶好の機会と捉え出展に臨んだ。



操縦桿操作体験「貴重な体験ができました」の声



地域のコミュニティイベントとしても成果があった